シンポジウム11
【大会長企画】始まりは地域から～地域歯科医院の挑戦～

座長：五島 朋幸（ふれあい歯科ごとう）
Sun. Jun 18, 2023 12:40 PM - 2:10 PM 第3会場 (3階　G304)
共催：株式会社ロッテ

【五島 朋幸先生 略歴】

五島 朋幸（ごとう ともゆき）

1991年日本歯科大学歯学部卒
1993年日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室第1講座助手
1997年訪問歯科診療に取り組み始める
2003年ふれあい歯科ごとう代表
博士（歯学）

日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科臨床准教授
東京医科歯科大学非常勤講師
慶応義塾大学非常勤講師
新宿食支援研究会代表
株式会社WinWin代表取締役

1997年よりラジオ番組「ドクターごとうの熱血訪問クリニック」（全国12局で放送）パーソナリティーを務める。

【著書】

「死ぬまで噛んで食べる 誤嚥性肺炎を防ぐ12の鉄則 」(光文社新書)、「訪問歯科ドクターごとう1: 歯医者が家にやって来る!?」（大隅書店）、「口腔ケア〇と×」（中央法規）、「愛は自転車に乗って　歯医者とスルメと情熱と」（大隅書店）など

[SY11-2]歯科に地域が救えるか　～医療インフラとしての歯科医院～

〇渡部 守[1] (1. まもる歯科)

【略歴】

2002年　新潟大学歯学部卒業
2006年　新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了（摂食･嚥下リハビリテーション学分野）
2008年　渡部歯科医院　院長
2016年　まもる歯科　院長 博士（歯学）

新潟県歯科医師会地域保健部員
佐渡歯科医師会在宅歯科医療連携室長

【抄録（ Abstract）】

佐渡は、離島でありながら面積が広く、また海と山とが複雑に入り組んで平地を分断し、ぽつんぽつんと小さな集落が点在している。
過疎地域では、地域住民を支える医療・介護その他の資源が圧倒的に不足し、そしてそれは進行する一方である。医師、看護師、介護士、リハビリ職、栄養士、いずれも足りない。病院が次々に閉鎖され、最寄りの医療機関まで片道1時間以上という集落も少なくない。

©Japanese Society of Gerodontology

これら医療インフラの不足は、これまで地域コミュニティによって補われてきた。しかし、人口減少と高齢化によって共助が力を失い始めている。財政基盤の弱い過疎地では、行政などの公助に限界があるのは論ずるまでもない。
このような中で、演者の地域では、歯科医療はまだそれなりに踏みとどまっている。しかし歯科医師も高齢化が進み、やがて、医師や看護師と同じような状況になることは確定的である。
演者が島に帰って仕事をし始めて約20年になる。この間も地域の過疎化と高齢化は歯止めなく進み、地域は変わり続けている。かつて抱いていた「地域の人々を支えたい」という単純で素朴な夢は少しずつ変質し、たくさんの挫折と失敗を経て、いま歯科医療が地域の重要な医療インフラになることを目指す「インフラ歯科」という考えを持つに至った。
電気や水道のように、赤ちゃんから高齢者まで、マタニティから看取りまで、地域の口腔の健康や「食」をくまなく支えることができれば、衰退していく地域を少しは救うことができるだろうか？
私がインフラ歯科の概念を考えるようになったのは、大学時代から若手時代に出合い、学びを乞うた先輩歯科医師たち、そして地域の人々からの大きな影響がある。
過疎地域の歯科医療のこれまでと、これからとについて、皆さんと議論したい。

©Japanese Society of Gerodontology